

タンプのようにしたり、木の枝の切った切り口に紙をあててその上に絵の具を塗って切り口の模様を映し出したりしている人もいた。

- ・各自、好きな場所で描き始めたが、自然と輪が出来上がっていった。
- ・木のイメージでは、林の中だけではなく畑のそばの木など、各自思い思いの木を見つけ木のイメージを膨らませていた。ピンッと張り詰めた空気が漂い、それぞれの感性が研ぎ澄まされている雰囲気であった。
- ・木のイメージを描き始めると、各グループがとても個性的なやり方をしていった。声を掛け合い、イメージを共有しながら描くグループもあった。
- ・どのグループも大きく、ダイナミックな作品に仕上げていた。



自分の描いたネイチャーアートを会場に展示

===子どもの頃の遊び体験を振り返る===

### ◆◆ワークショップ3

<休憩した6人グループそのままテーブルについたまま  
／5～6人グループ>

A、OHPで、昔の子ども遊びのイラストをみせ、イメージを膨らませる（15分程）

※イラストは岐阜県おおくわ宿の昔の遊びを調査したもの。ひみつ基地作りなど。

B、二人一組（できれば世代を違えて）で、遊びの体験を語り合い、お互いがメモやイラストを描く（白い紙に色鉛筆などを使って）／15分×2人ずつ

C、グループ内でお茶しながら、聞きあって面白かった遊びの話を発表しあって、世代をこえて子どもの頃の遊びの共有をする／20分位

### ワークショップの様子

- ・遊び体験の話し合いでは、特に年配の人が若い人に昔の遊びについて語っていた。絵を交えることで、世代が違っても遊びのイメージはわいているようであった。

・それぞれのグループで、各々の参加者が自分の遊びについて話を進め、いろいろな遊び話がでていた。和気藹々とした雰囲気であった。

・グループによって話し合いの進行方法は違っていたが、全ての人がきちんと発言を行い話し合いに参加していた。

・お茶を飲みながらということで、全体的にリラックスした雰囲気になっており、話し合い和やかにすすめられていた。

### ◆◆ふりかえり

お茶を飲みながら、グループ内で今日の体験を語り合う

最後に一人ずつ、振り返りノートを書き提出

— 終了 —

※自分たちがカメラゲームで描いた絵を多目的ホールの好きなところに貼って、みんながどのような体験をしたのか共有する。また、絵にタイトルをつける。

→他の人の絵をみることで、いろいろなイメージや感性があることを認識していた。

## ～ネイチャー＆アートで自分の感性を見つけよう～ ②

11月29日実施

「自分が子どもの頃の遊び」を振り返りながら、先週のネイチャーアートと今日のスライド見たプログラムを参考に、各自の活動にどうつなげていくのかを考えてみよう。

30分ぐらいやりたいと思っているのですが、先週の最後に皆さんに書いていただいたアンケートの中で、時間が短かったという話がありましたね。1週間くらいかけてやるものを3時間くらいでやってしまったので、すごく消化不良になった方も多かったと思います。今日は先週足りなかった部分を少しだけ振り返って、ちょっと膨らませたいなと思って考えました。前回の、自分の子どもの頃の遊びを振り返ると言うことをしていただきながら、なおかつ、今見ていただいたものを参考にしたり、先週やっていただいた絵を描いたり、木の下に寝そべったり、そんなことを参考にさせていただきながら、皆さんの活動にどんな風に繋げていけるか、ちょっと考えていただけたらと思うんですね。A4かB4の白い紙をこれからお配りしたいと思いますので、一人一人自分の夢みたいなかんじで、絵でもいいし、文

章でもいいし、キーワードでもいいし、子ども達にこんなことをさせたいな、とか考えてみてください。自分の遊びだけではなくて、隣の人がこんな遊びを話してくれた、あれをこういう風に使っちゃおうとか、グループ内で発表していただいたあの遊び面白かったな、それをこんな風にやってみたいなのように使ってもらっても結構ですので、人から聞いたもの、見たものを全部盗んじゃおうみたいなそんなかたちで考えていただけたらと思います。

### グループワーク

- 各々配られた紙に、色鉛筆・マジックなどで自由に絵や文字、イメージを描きながら意見交換をしていく。(約15分)
- 意見交換の内容
  - ・自己紹介(大学職員、NPO主催者、学生など、様々な立場の人が集まった。)
  - ・子育て、塾、樹木の成長、冒険遊び場、総合学習の授業についてなど。

それでは、先週の振り返りを含めまして、先週描いた自分の絵を外して持ってきて、床に広げて置いてみてください。その絵を、周りと繋げてみて欲しいのですが、単につなげるんじゃないんですね。これとこれをこういう風に繋げてみたらいいんじゃないかとか、色合いとか書かれた文章なんかを考えていただいて、グループで作るサークルを考えてください。まずは置いてみて、それから丸く繋げてみていただけたらと思います。

### ワークショップ

- 先程繋げてできた2つの大きなサークルを、お互いのグループで観察し合う。  
360度から虫の目になって見てみよう。
- 2つのサークルを繋げ、更に大きなサークルを作る。  
切ったり、貼ったり、立体的に作り上げていく。
- 大きなサークルが出来上がったら、その周りに全員で立ち、遊びを考えてみる。

#### 遊びのアイデア

- ①「キラキラ」「さらさら」など擬音を使って作品の感想を一人ずつ言ってみよう。
- ②みんなの擬音を手拍子のリズムに乗せて繋げて言ってみよう。
- ③手をつないで輪になり、擬音に合わせて身体を動かしてみよう。

- ④前回作った「木になろう」の大きな紙をみんなを持って、作品の周りを囲んでみよう。
- ⑤作品を持ったまま少しずつ移動して、360度の景色を楽しもう。
- ⑦紙を置いて、作品の周りに山を作ってみよう。

(その後、農園で採れた大根、ブロッコリー、さつまいも、さといも等が振舞われる。)

### 「ネイチャー & アート」でつくった大きな作品

#### ワークショップを前にしての「見立て」

日本文化における自然観 — 「風景」「みたてあそび」と感性・表現の楽しみ

### まとめ

それでは、最後にこの言葉を申し上げたいんですけども。ご覧になった方はお分かりになったと思いますけど、偶然こういうものができました。日本にもすごく古くから、自然を愛でたり、自然に親しんで生きてきた人達がいて、今日の最初のスライドでも向こうの子ども達がインディアン遊びをしていましたね。僕は最近インディアンの人達や、アイヌの人達、カナダに行けばしばらくしてから、本当の先住民の方にお会いして色んなことがございました。行ってみて一緒に住んだり、ちょっと連れてってもらおうと、僕たちと同じ髪の色や肌の色をしている。言葉は英語でしゃべらせてもらったんですけど、ご存知のように色んな時代があって、昔は日本のアイヌや縄文、弥生と同じような生活をしていたんですけども、時代が変わって自分たちの文化を伝承できないようになりました。白人の人達が入ってきて、先住民の言葉を使っちゃいけないとキリスト教の学校に行かせたんです。そういう時代もあったんですけども、今は、自分たちの言葉と自分たちの文化を取り戻そうと言うことをやっているんですね。

それで、私と私の仲間が行って帰ってきたとき、こんな話をしました。言って面白かった、すごかったって話は色々したんだけど、じゃあこの国で僕たちは何をしたらいいのかって話をしたんですね。で、その時に、若い人もいるし、年配の方もおられるんだけど、私たちはもしかしたら少数民族では無いかって話。僕たちは日本人で、現代人で、コンピューターも使っているけれど、何処の土地に住んで、何処の水を飲んで、何処の太陽を見て、何処の夕日が沈むところを見

るといふ、そういう古い話とか言い伝えとかどのくらい知っているのかと言った時に、まだまだいっぱいあるんですね、知らないことが。そんな中で、みなさんに出会ったりすると、向こうにいるカナダの先住民はどういう交流をするだろう、どういう子ども達とどう暮らすをするだろうかと思っているんですね。何処の国でも共通することがあって、ちょっと目をつぶっててください。

(塚本先生が太鼓の演奏をする)

これは向こうの人が作った太鼓です。僕たちの地域にも色々な太鼓があったりしますが、叩いて出る音は向こうの人達に言わせると心臓の音だといいます。お母さんのお腹にいる時からもう母親の心臓の音を聞いています。向こうの人達はよく太鼓を叩きます。うるさい子どもに太鼓を聞かせるとすぐ落ち着いてくるという話です。僕らも一緒であると思います。

ひとつだけ最後にお話したいことは、あるところで北アメリカから来た、代々酋長の人の話なんですけれども、子どもが小学生くらいだったんですが、大人が色々な話をしている途中で、遊んでいた子どもがお父さんのところに来て耳打ちをして、で、また遊んでいるんですけどもまた耳打ちをしに来て、そうしたら周りの大人たちがざわざわし出したんです。それに気づいたお父さんは、「今みなさんはこの世界がおかしいと思ったでしょう」と。「白人の社会ではこういう場で子どもの声が聞こえたらうるさいとなる、だけど私たちのところでは、子どもの声って言うのは未来の声だ。だからうるさいとは言わないんだ。一緒に目の前で手をとって聞くことが大事なんだ」と。

うるさい時もあるけれど、それはすごくメッセージがあるんだという、そういうお話を最後にさせていただきました。(会場、拍手)



感動共有



視点をかえる



内・外両世界



皆持ち回り見る





日本文化と＜自然観＞の紹介



盆景と「みたて」

96年より地元立川で、子どもの遊びの為にボランティア・グループ立川キッズを仲間と共に設立し、国営昭和記念公園・こどもの森にて「ネイチャー&アート」自然体験とアートを組み合わせたプログラムを開発し実施。2003年よりNPO法人こどもと文化協議会プラッツの理事で、イギリスやドイツで盛んな、遊びの出前・プレイバスを仕掛けている。

#### <講師プロフィール>

**塚本 純久** (つかもと ひとく)

武蔵野美術大学・大学院 非常勤講師

武蔵野美術大学卒業後デンマーク政府交換留学生としてコペンハーゲン・フローベル・セミナリエットで幼児・社会教育・冒険遊び場等について学ぶ。

武蔵野美術大学大学院、スイス・チューリッヒ・ユング研究所ではユング心理学的視点から遊戯・芸術療法について研究し、卒業後もその実践を試みている。

海外での講演・ワークショップ・フィールドワークの経験を生かし、最近では日本の伝統文化の研究と次世代への伝承活動にも関心を持っている。

#### <講師プロフィール>

**内藤 裕子** (ないとう ひろこ)

まちとこどもの環境研究所 代表

NPO法人こどもと文化協議会・プラッツ理事

愛知県豊橋市生まれ。多摩美術大学・立体科卒業。東京芸術大学・環境造形デザイン大学院修了。同大学同研究室助手をへて目白大学短期大学部非常勤講師。